

事業完了報告書（実行団体）

| | |
|----------|---|
| 事業名: | 移住者コミュニティのエンパワメント事業 |
| 資金分配団体名: | 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム |
| 実行団体名: | 社会福祉法人 日本国際社会事業団 |
| 実施時期: | 2021年5月～2022年2月 |
| 事業対象地域: | 全国※ただし拠点としては、東京、千葉、群馬、広島 |
| 事業対象者: | コロナ禍でセーフティネットが脆弱な、外国につながる家族 ・社会とのつながりが希薄な女性（母親） ・派遣等不安定な就業形態にある人（父親、母親） ・家庭学習の機会が十分ではない子ども、不就学や不登校の子ども |

Version 3.2

日付: 2022年3月11日

I. 事業概要

| | |
|--------|---|
| 事業実施概要 | <ul style="list-style-type: none"> 不安定な就業形態にある移住者に対し、オンラインでのプライベート日本語レッスンを提供し、危機の状況にあっても解雇されず、安定的な就労やキャリアアップを目指す。 口頭での日本語コミュニケーションはできるものの、読み書きができないために就労及び社会生活に支障がある移住者に対し、オンライングループレッスンを提供し、生活の安定化を目指す。ワクチン接種や各種制度の利用をはじめ、書類の読み書きが必要な場面で取り残されないようにする。 社会との繋がりが希薄な穆斯林女性に日本語教室を提供し、社会とのかかわり（学校とのやり取りができる、一人で病院に行ける、就労など）を持ちながら、孤立せず、自立的な生活を送れるようになる。教室を通して、コロナ禍に必要な情報を入手し対応できる。 日本語学習に際しては、PC/ITスキル（日本語入力、検索機能、SNS活用等）に関わる内容を盛り込み、オンライン化する社会から取り残されないようにする。 家庭学習の機会が十分ではない子どもに対し、家庭学習を補う学びの場を提供する。 キャッチした生活課題（個人、コミュニティ全体）に対して必要な支援（物資支援、医療費支援、伴奏支援）を提供する。 |
|--------|---|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|-------------------|--|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | <p>ニーズについては概ね想定通りであり、教室やレッスンを通して様々な生活課題についてもターゲットコミュニティ全体にリーチすることができた。これまで水面下に存在していた課題がコロナ禍によって可視化され、そこへの支援を提供することはできたが、同時に、ある程度の継続性が求められる内容でもあったことから、いかに持続可能なものとして体制を構築できるのかが今後の課題であると認識している。</p> <p>一方で、就労の安定化やスキルアップに必要となると考えていたPC/IT講座については、当事者がニーズとして意識できていないケースが多く見受けられ、実施は難航した。日々の生活が精一杯である移住者にとって、自発的な参加であることが継続や有効性に直結すると考えられるため、突出して高いニーズである日本語学習の中に盛り込むという形で対応した。</p> <p>食糧支援を求める相談が多く寄せられたため、フードバンクの紹介だけでなくISSJ独自の食糧配布も行った。お米の寄付なども活用できたが、コロナ禍で課題となったフードロスの問題とも絡めて支援できると幅が広がると感じる。しかし、緊急支援として実施する中で新たな枠組みの構築まではできなかった。</p> |
|-------------------|--|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|----------------|------|---------------------------------------|---|--|--|--|
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 就業困難 | 日本語教育裨益者の65%が職に就いている状態となる | ・就労者数 | ・就労している人：全体の60% | ・就労している人：全体の50%（事業開始時に比べ、2名が新たに就労した） | 新たにパートタイムでの就労を目指す女性や、日本語を学んだことで運転免許証の取得ができ就職活動や就労の幅が広がるという例が複数見られた。事業期間には必ずしも就労につながらなかったとしても、その準備期間として位置づけられた。日本語教育裨益者の半数以上を穆斯林女性が占めており、就労までには様々なハードルがあり、さらに、コロナの影響が長期化していることでパートタイムでの就労の機会が制限されたことが、就労率の上昇があまり見られなかった要因であると考えられる。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 就業困難 | 移住者10人が日本語のプライベートレッスンまたはパソコンの講座を修了する。 | ・参加人数 ・レッスン提供時間数 | ・参加人数：10人以上 ・提供時間：延200時間以上 | ・参加者：10組14人 ・提供時間：延332.5時間 | それぞれのニーズに合わせたレッスンだったため、離脱なく継続された。これからN3を受験する予定の人、運転免許の試験に合格できた人、自立へむけて専門学校合格を得られた人など、就労の安定化や幅の広がりにつながる成果を得られた。一方で、学習期間の短さも指摘された。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | その他 | 女性60人が日本語教室に継続的に参加し、日本語力が向上する。 | ・参加人数及び継続率 ・教室開催時間数 ・日本語力の伸び ・社会参加への自信 | ・参加人数：60人以上 ・継続率：80%以上 ・提供回数：延540時間以上 ・宿題等の取組：80%以上 | ・参加者：61人 ・修了者：54人（継続率86%） ・提供時間：のべ600時間以上 ・宿題等の取組：80%以上 | （②課題：社会的孤立、生活困難、学習機会の不足）オンライン/対面に対応することで、コロナ禍であっても（子どもの保育園や学校が休校となった場合でも）参加することができ、孤立を防止できた。それぞれのレベルに合わせた日本語力の向上に伴い、日本語を使ってコミュニケーションをとることに対する自信の著しい向上が見られた。授業での様子の変化や発言、ヒアリングより、社会参加が促進されたことが確認された。 |

| | | | | | | |
|----------------|------------|---|------------------------------|---|--|---|
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | その他 | 日本語非識字にある移住者5名が名前や住所など各種手続きに必要な基本情報を読み書きできるようになる | ・講座参加及び修了人数 ・習熟度 | ・講座修了率：80% ・ひらがな、カタカナをマスターする：80% | ・参加者：11人 ・修了者：9人（修了率：82%） ・修了した9名全員がひらがな、カタカナをマスター（100%） ・提供時間：延104時間 | （②課題：就労の安定化、生活困難）オンラインという制約がある中でも、9名全員が仮名をマスターし、簡単な漢字の読み書きもできるようになった。読めるようになったことで、職場での指示もスムーズになった人、図面が読めるようになり業務の幅が広がった人、運転免許取得につながった人、市役所等で助けを借りずに書類を書き込めるようになったという人が複数いた。合わせて、読み書きを体系的に学ぶことを通して、「正しい日本語がわかった」との声が多く聞かれた。日本社会で大人として生きていくためには読み書き能力も不可欠で、本人にとっては重要でありながら見過ごされがちなニーズであったことが再認識された。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 就業困難 | より安定的な就労を目指す移住者10名の日本語能力アップ及びビジネス日本語の習得 | ・日本語能力の伸び | ・N3～N2程度の習熟度達成：80% | ・それぞれの目標の達成：100% | 学習開始前のソーシャルワーカー及び日本語教師との個別ヒアリングによりニーズを特定し、設定した目標は全員が達成することができたことが日本語教師を通じて確認された。JLPT受験や就労上のスキルアップのためには継続的な学習を求める声が多く、いかに持続可能なものとするのか、ゴールをどこに定めるのが課題である。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 外出困難 | 子育て中心の生活を送っている移住者（女性）25名が、生活（子育て）に必要な日本語を習得し、病院などに一人で行けるようになる | ・日本語能力の伸び ・家族や友人らが仕事を休む回数 | ・N5～N4程度の日本語力の獲得：80% ・家族や友人らが仕事を休んで同行する回数の減少 | ・N5～N4程度の日本語力の獲得：100% ・生活の中で一人で行けることの増加 | 子育て中心の生活を送っている女性の日本語レベルに合わせた教室でニーズに沿った学習を提供したことで、日本社会との関わりに自信を持ち、主に子育てにかかわる場面で日本語を使って自分でできることが増加した。コロナワクチン接種の予約や予診票の記入、保育園等の健康観察票の記入、先生とのコミュニケーションなどができるようになり、病院の予約や診察も家族や友人の助けを借りず一人でも対応可能となったという成果がみられた。社会とかかわり、自立的な生活を送りたいという強い思いに対し、継続的な学習の提供・社会参加のきっかけづくりが課題として残っている。 |
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | 子ども20人に対し、週1回の家庭学習支援（オンライン・オフライン）を提供し、参加を継続している。 | ・学習支援提供回数 ・出席率及び継続率 | ・学習支援提供回数：延400時間以上 ・出席率及び継続率：各80% | ・支援提供時間：のべ400時間以上 ・子ども13人に対し、週1回～2回の学習支援を提供、継続率100%（2月より順次、引継ぎ） ・子ども11人に対し、夏休みの宿題支援を提供 | 子どもの学習面の支援だけでなく、親への情報提供や家庭学習の位置づけなどを個別に話す場を設けることで家族全体を支えることにつながった。マンツーマンとすることで、子どもたちの満足度が高く、大学生とお話できる楽しい時間として認識され、離脱する子どもはなかった。コロナ禍を受けて、子どもの学習支援の必要性については社会的認知が高まり、他の支援が立ち上がったため、そちらに順次引継ぐことで継続性を確保する。 |
| 生活困窮者 | 相談先の不足 | 学びの場を通してキャッチした生活課題の解消が図られる | ・個別支援の提供回数 | ・必要な個別支援の提供：100% ・状況の改善又は当事者の不安の軽減：100% | ・コロナ関連の相談：100件以上 ・必要な情報及び支援の提供：100% | 上記参加者等、ISSJとの繋がりのある人、その人と繋がりがありISSJを紹介された人、コミュニティ経由など、コロナに関する様々な相談が寄せられた。多くは、感染、ワクチン接種、給付金等の申請、長期化するコロナ禍による経済的影響についての相談であったが、中にはメンタルヘルスや家族関係（DV、虐待）についての相談もあり、自治体や関係機関と連携して必要な支援を提供した。もともと脆弱性の高い移住者は一度影響を受けるとそこから抜け出すことが難しく、コミュニティ全体が疲弊してしまっている状況が明らかとなった。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|--|
| 事業実施以降に目標とする状況 | <ul style="list-style-type: none"> 日本語力やITスキルの向上により、賃金又は職位が上昇する。 女性の日本語力向上により、社会との接触到に自信を持ち、就労に繋がる 子どもが継続的な学習機会や日本社会との繋がりを得て、自己肯定感をもつ ISSJの介入により、コロナ禍による生活課題の解決（就労、支援に繋がる等）が図られる |
| 考察等 | <p>既に就労し社会との繋がりがある男性からも、体系的に学ぶことで日本語に自信を持てるようになった、同僚に褒められたとの声が聞かれた。職場コミュニケーションの向上や識字による業務の広がり、今後のキャリアアップにつながる。</p> <p>女性が生活面で必要な日本語を習得し、コミュニケーションに自信を持てたことで、家族や友人が仕事を休んで対応すること減少した。これは、家族や友人（コミュニティ）の就労の安定化や賃金の上昇にもつながると考えられる。</p> <p>子どもたちは大学生等の指導者と家族や友達と異なる関係性を築き、肯定的に受け入れてくれる存在を得ることで自分の気持や夢を語る子どももいた。信頼に基づいて自己表現できたことは、今後様々な自己決定をしながら生きていく上で貴重な経験となった。</p> <p>コロナ関連（ワクチン接種、感染時の対応等）では、コミュニティから在留資格を持たない人についての相談が寄せられた。自治体の対応が定まらない中、ISSJの介入によりワクチン接種券を発行した自治体数は30にのぼる。将来的には外国籍住民に対する知見が蓄積され、地域内で課題解決が図られることが望ましい。そのために現状を伝え、発信していくことも重要性である。</p> |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|--------------------------------------|--------|---|
| 女性のための日本語教室開始準備 | 計画通り | コロナの感染拡大状況を見ながら、各拠点における対面/オンラインの可能性を探り、実施にこぎつけた。 |
| 女性のための日本語教室開催（千葉、広島、群馬） | 計画通り | 3拠点、それぞれのニーズや状況に応じて開催することができた。女性たちの孤立を防ぐと同時に、コロナ感染予防やワクチン接種に関する情報を教材として扱い、啓発的な意味合いを持たせることができた。女性（母親）たちが感染症に関する正しい知識を持ち、且つ、教室で学んだ日本語を使うことで、子どもの学校での感染症対策や病院対応等を積極的に行うことが可能となった。 |
| プライベートレッスンおよびパソコン講座の準備、支援提供者の選定 | ほぼ計画通り | パソコン講座については、複数名での対面を想定していたが、コロナの感染拡大が続き、実施不可能との判断を下した。代わりに、プライベートレッスン内にパソコンやオンラインツールの活用に関する内容（パソコンやスマホでの日本語入力や漢字変換の方法、検索ワードの書き方、オンライン上の資料のダウンロード方法など）を盛り込むこと、個別のパソコンレッスンを行うことでその代替とした。 |
| プライベートレッスンおよびパソコン講座の実施 | ほぼ計画通り | プライベートレッスンおよびグループレッスンを実施した。パソコン講座についてはすべて個別対応とし、レッスンの中に組み込むことで対応した。自宅でのオンラインレッスン参加が難しい学習者にたいしては、ISSJ事務所に来てもらい、PCのレッスンも合わせて提供することができた。ITスキルの習得については、支援者側がその課題を認識していても、当事者が課題として認識していないことも多く、押しつけとにならない形でいかに提供できるのかが課題となった。 |
| 家庭学習支援の実施 | 計画通り | 週1回～2回の定期的なオンライン学習支援と、夏季休暇中の夏休み宿題支援（対面/オンライン）を行った。 |
| 居場所づくりの拠点準備 | 中止 | コロナの感染拡大がとまらず、実施を断念した。 |
| 子どもたちの居場所の確保 | 中止 | 地域によっては、移住者は「目立つ」存在であり、数名感染が出た時点で、自治体等からISSJに、「文化や習慣が異なるためコミュニティでの感染拡大が懸念される。感染対策を徹底するよう伝えてほしい」との連絡が入ったことがある。そういった中で、子どもたちが集まることで、より一層コミュニティ（および移住者全般）への厳しい視線が寄せられるリスクを回避する必要があると考え、中止という判断に至った。 |
| 学習支援や教室を通じて個別の相談を受け、必要な支援を提供する（個別支援） | 計画通り | 教室参加者、参加者の友人等を通して寄せられた様々な相談に対し、必要な支援を提供した。必要に応じて同行支援も実施した。 |
| 学習支援や教室を通してキャッチした生活困窮に対する支援 | 計画通り | 教室参加者、参加者の友人、コミュニティから寄せられる生活困窮に関する相談に対して、フードバンクの紹介、宗教等の理由で食事制限がある人についてはそれらに対応した食料品の送付を行った。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|--|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | <p>会話（聞く・話す）ができる移住者の学習の必要性は見過ごされがちだが、識字は彼らが日本社会との関りを深める上で必要不可欠とわかった。書類の読み書きで子どもに頼らねばならない状況は親としての自尊心も傷つけていた。文字を学ぶことで「何年日本に在るのに読み書きできず恥ずかしい」という負の感情から解放され、生活が楽になったという声も聞かれた。文字を学ぶ過程で新たな語彙を習得し、正しい日本語を身につけることにもつながった。</p> <p>文字学習はボランティアでの指導では難しいため、既存の地域日本語教室とは異なる場が必要である。このような層は各地に多く存在していると見られ、今後の展開を検討したい。</p> <p>また、移住者コミュニティとの結びつきが弱く、孤立とまではいなくても社会資源や情報へのアクセスに課題を抱えている人々も存在することが個別レッスンの実施を通して明らかとなった。このような人々にリーチするには、彼らが繋がりやすいツールと「参加したい」と思える機会を提供することが鍵となる。本事業では日本語レッスンがその機能を果たしたが、今後新たな繋がりをどのように創出し、社会から取り残されないのか検討する必要がある。</p> |
|---------------------|--|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|--|
| 課題を取り巻く変化 | <p>コロナ禍が長期に及び、食料を求める声や住居相談など外国人の困窮状況には変化が見られない。就労している人も安泰というわけではなく、「日本語は解雇されて職探しをするときに必要になる」という声に、内面では不安を抱えている様子が読み取れた。一方、コロナ禍における学習格差の拡大については社会的認識が高まり、難民を対象とする学習支援団体が新たな事業を始めた。オンラインツールの利用はコロナ禍の初期には拒否感を示す移住者が多く、教育歴で差があるように見えたが、今では日常的なツールとして広く受け入れられている印象がある。これによりパンデミック下でも学習を継続でき、家庭から出られないときも孤立状態に陥らずに済んだ。さまざまな相談もオンラインで実施することができ、当事者にとって利便性が向上した。本事業では、日本語の獲得が定住促進（帰属意識と自己効力感の増進を含む）に不可欠であり、かつムスリム女性や母親、読み書きのできない移住者のニーズについては社会的資源が不十分であることも判明したため、引き続き取り組む必要があると考えている。必要性を発信しつつファン드를獲得し、取り残されがちの人々への支援を継続したい。</p> |
|-----------|--|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|------------------|-----------------|
| セカンドハーベストジャパン | 食糧支援案内状の発行 |
| 公益社団法人 国際日本語普及協会 | プライベート日本語レッスン |
| 東洋大学 | オンライン学習支援ボランティア |
| 千葉大学 | 日本語教室ボランティア |
| セブン-イレブン・ジャパン | ムスリム女性の就労について |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|------|-------|--|------------|--------|
| 事業費 | 直接事業費 | 12,328,340 | 12,332,540 | 100.0% |
| | 管理的経費 | 2,771,660 | 2,771,660 | 100.0% |
| 合計 | | 15,100,000 | 15,104,200 | 100.0% |
| 補足説明 | | 翌月払いの経費についても3/10までに支払いが完了しているため、上記金額に含んでいます。 | | |

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|--------------------------------|--|
| 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等) | 在留資格のない外国人のワクチン接種券取得手続きについて https://docs.google.com/spreadsheets/d/1XIzpdYIV_6jnkxcrYQoCvouVDK8NWV/edit?usp=sharing&ouid=106600939003656891426&rtpof=true&sd=true |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの | なし |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例) | 学習者の教材ファイルにシンボルマークを貼付 教室活動の成果集にシンボルマークを貼付 購入機材にシンボルマークを貼付 |
| 4.報告書等 | 教室活動の成果集 (日本語教室千葉拠点) 公益社団法人 国際日本語普及協会の機関誌に学習者の作品掲載 千葉大学のボランティア報告書に掲載 |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 | 状況 | 内容 |
|---|--|--|
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 整備中 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | 部分的には整備したが (法令遵守規程、倫理規定)、定款細則は未整備。ただし、社会福祉法人なので、必要な内容は法律によって規定されている。 |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | 未公開 | ウェブサイトを更改中なので、2022年度に公開予定。 |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更があり報告済 | |
| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
| 1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | はい | |
| 4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。 | はい | |
| 5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | いいえ | |
| 6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 外部監査 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 | |
| | <input type="checkbox"/> 実施予定はない | |
| 7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8.内部通報制度は整備されていますか。 | はい | 内部および外部に窓口を設置 |

XII. その他

自由記述

| |
|--|
| |
|--|